

第3回那須塩原駅周辺まちづくり協議体 会議要旨

○日時 令和7年3月25日（火）18:00～20:00

○場所 那須塩原市東那須野公民館

○出席者 協議体メンバー 14名（オンライン1名）
オブザーバー 8名

- 次第
1. 開会
 2. あいさつ
 3. 内容
 - （1）経過報告
（質疑応答）
 - ・ 過去2回の協議体の振り返りと今後の予定について
 - ・ 公共空間活用社会実験の開催結果について
 - （2）協議体ワーキンググループ報告
（質疑応答）
《意見交換》
 - （3）グループワークについて
 4. 閉会

○配布資料 次第

【資料1】経過報告

【資料2】協議体WG報告

【資料3】協議体名簿

○協議体当日の様子



グループワーク中の会場の様子



グループワークの様子

○会議要旨

1. 開会

2. あいさつ（進行：吉成座長）

3. 内容（進行：吉成座長）

（1）経過報告

資料1に基づき、これまで2回のまちづくり協議体での議論の振り返りと、令和6年11月1～2日に行った社会実験「D' harvest Walk Fest」の開催報告を事務局から行った後、質疑応答を行った。

<質疑応答での意見>

- 社会実験に対して市民からのネガティブな意見はあったか。
→ネガティブな意見はほぼなかった。ただし、交通規制や民間駐車場の利用に関する問い合わせやが数件あった。
- 社会実験の結果をどのようにまちづくりの方向性の中に活かしていくのか、どのような文化を養っていくのか示す必要がある。
- 社会実験の参加者約6,000人のうち、観光客の割合はどのくらいだったか。
→今回の社会実験では、来場者数の属性として観光客であるか否かの調査は行っていないため、観光客の割合は不明である。

（2）協議体WG報告およびグループワーク

資料2に基づき事務局より過去3回の協議体WGでの議論の報告を行った。議論結果を3つの視点にまとめ、それらの視点から「まちづくりのタイトル」を考えるグループワークを行った。別紙にてグループワークの概要を掲載している。

<質疑応答での意見>

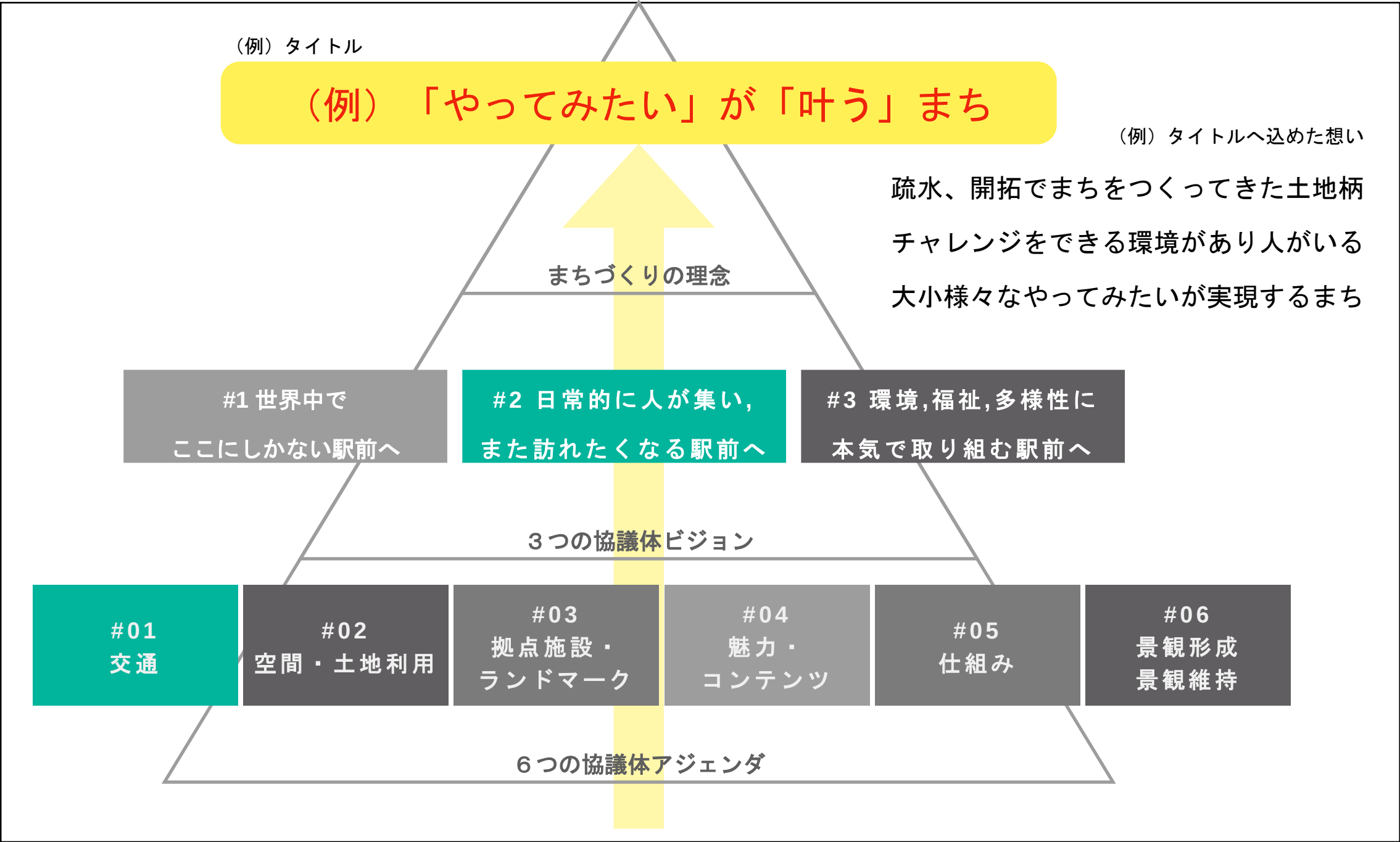
- 車がなくても生活できる駅周辺は魅力的であるが、検討している範囲が限定的な印象である。新市庁舎の利用者は那須塩原駅を使う人だけではないので、那須塩原駅周辺の限定的なエリアとするのではなく、市全体の交通体系から見直しを図る必要があるのではないか。
- 那須塩原駅周辺では、行政が所有している土地は限定的である。民有地の土地活用をどのように促していくのか、想定しておく必要がある。
- 今回のグループワークの結果である「まちづくりのタイトル」は協議体レポートでどのように活かされるのか？
→令和7年6月に予定している協議体レポートの中で各タイトルを“実現したいまちのあり方”として反映する予定である。

4. 閉会

過去2回の協議体および3回の協議体WGでの議論を総括し、“実現したいまちのあり方”を明確にするため、これまでの議論を次ページ以降に示す視点①～③に分類し、各視点に基づいてまちづくりのタイトル（※）をつけるグループワークを行った。

各グループの結果は「タイトル」および「タイトルへ込めた思い」として、事務局で整理した上で協議体レポートにまとめる。

※英語・カタカナは使わずに20文字以内とする



視点①では、那須塩原駅周辺で新たな価値観を創出することを目指し、これまでの協議体・協議体WGやまちづくりレクチャーアンケートなどであげられたまちのイメージを図示し、那須エリア全体の魅力を伝える視点でグループワークを行った。



タイトル

おいしい冒険が始まるまち

タイトルへ込めた想い

那須エリア
を味わう

■那須エリアの魅力と価値を味わう

- ・地域の魅力（歴史、文化、開拓、大将鍋など）
- ・地域の自然と国立公園へのつながり
- ・サステナブルビジョンの都市
- ・地域の付加価値を創出、ブランディング

■那須エリアの“食”を味わう

- ・ミシュランレストランで世界と戦う
- ・食通が集まるまち

語り伝えることで
“おいしい”に深
みが増す駅前

■人との接点＝人と語らう場を駅前につくる

■おいしいの価値を人の語りで増す＝素材のブラッシュアップ、物販

■おいしいの語り部が暮らすまち

冒険が始まるまち

■那須エリアへ向かう旅の玄関口としての那須塩原駅

■「見たことない！」に出会える期待感のある駅前

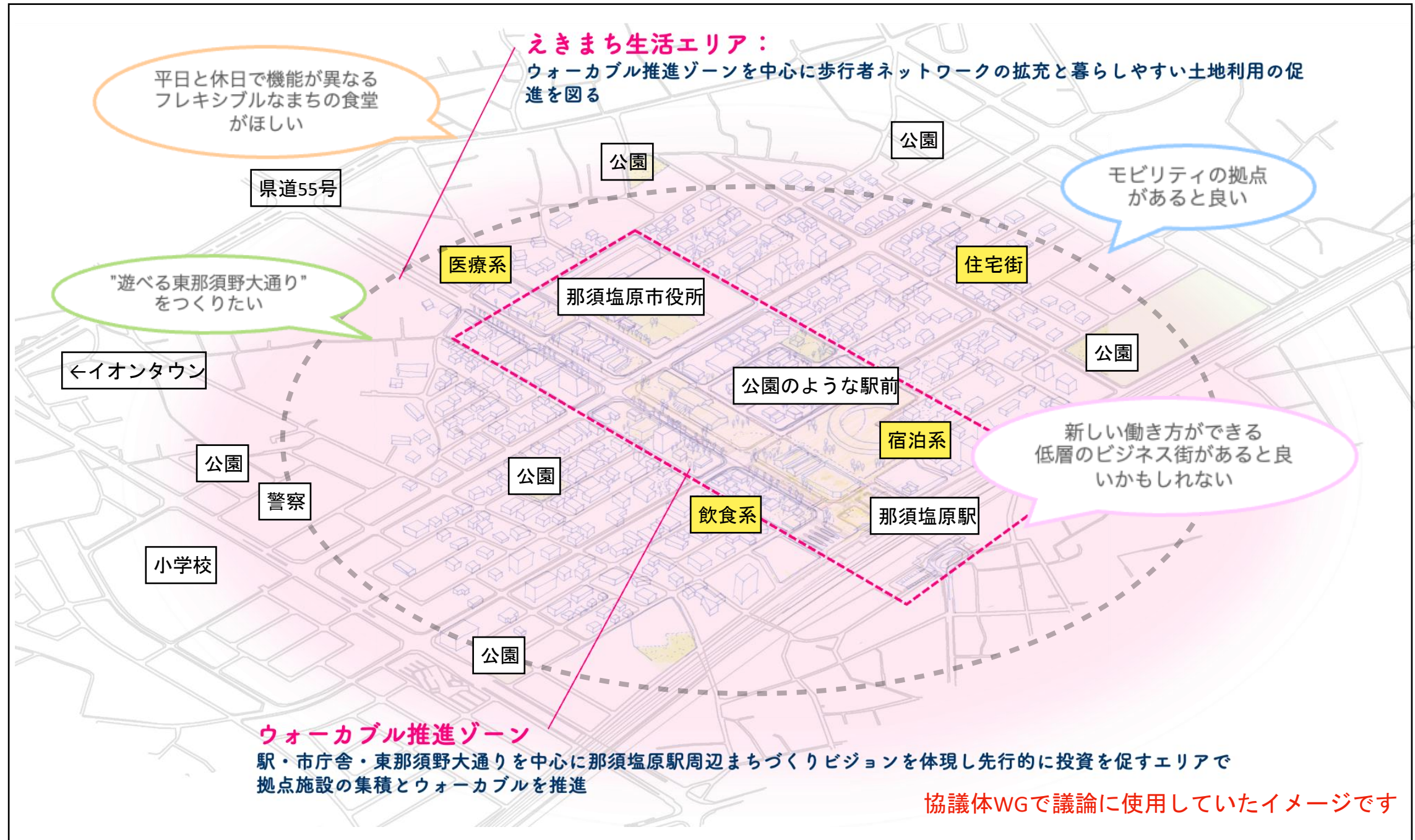
■日常から気持ちが切り替わる

■旅とおいしい、自然と冒険が交わるまちへ

視点②

駅周辺に住む人、訪れる人の視点

視点②では、協議体WGにて議論を行ってきた土地利用や歩行者回遊動線、“2つのまちの骨格”（えきまち生活エリア、ウォカブル推進ゾーン）をについて、その考え方を図示しながら、現況の土地利用の傾向を念頭に、駅周辺に住む人、訪れる人の視点でグループワークを行った。



タイトル

つどい・あそべる えきまち生活エリア

タイトルへ込めた思い

居場所となるエリアをめざす

■いつでも誰かに会える

- ・ふらっと立ち寄れる場所
- ・こどもから高齢者まで楽しめる場所
- ・中高生が集まって話したり勉強したりできる場所

ウォーカブルで安心・安全な
エリアをめざす

■昼も夜も安心して歩ける

- ・歩行者優先の回遊空間
- ・夜でも安心して歩ける夜間景観
- ・昼も夜も人の活動が見える

公民連携でつくりあげる

■沿道と道路空間を一体的に利用

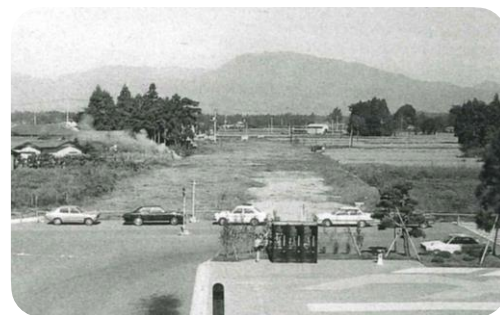
- ・限られたスペースを有効に使う

健康交流という付加価値

■運動“スポーツーリズム”ができる

- ・健康
- ・交流やコミュニティの生まれる運動
- ・夜でもランニングできる

視点③では、第1回協議体で示された整備イメージ図と駅前のビジョンをもとに、協議体WGでより具体的なシーンや言葉として置き換えたものを図示しながら、市内外の人へ那須塩原駅前の可能性を伝える、という視点でグループワークを行った。



開拓の歴史を想う山並みと
疏水の記憶を辿る水の風景。
緑豊かな学びのフィールド。

#1 世界中で
ここにしかない駅前へ



おいしいカフェやマルシェ。
友だちと、家族と。
今日も明日も、わたしの居場所。

#2 日常的に人が集い、
また訪れたくなる駅前へ



アート、スポーツ、自由な振る舞い。
多様な人が集う場所。
365日、ずっとあなたの居場所。

#3 環境、福祉、多様性に
本気で取り組む駅前へ

タイトル

時間を忘れるほど夢中になれる駅前

タイトルへ込めた思い

夢中になれる学びがある

- “疏水”を知る
- 那須エリアの“自然”
- 那須エリアの“食”を知る

好きなことができる

- 夢を追いかけられる場所がある
- 「とりあえず行ってみよう」と思える場所がある

誰かの“好き”に触れる

- いろいろなひとの“好き”が集まる拠点がある
- 駅前で「何かやっている！」と目で見えてわかるような場所が必要
- 目で見えてわかる＝まちに灯りがともっていること
- 集まった“好き”が最終的には那須塩原の象徴になる

補足として、第3回協議体で議論された結果を協議体レポートとしてまとめるにあたり、事務局にて以下のとおり整理を行う。
視点①によるタイトルは那須エリア全体の魅力を感じる駅周辺のあり方を通じ、「駅周辺まちづくりで創出する新たな価値観」として、
また、視点②は「駅周辺エリアで実現したいまちの骨格」、視点③は「駅周辺の基軸となる駅前の方針」として整理する。

駅周辺まちづくりで創出する新たな価値観

おいしい冒険が始まるまち

実現したい駅周辺のまちの骨格

つどい・あそべる えきまち生活エリア

駅周辺の基軸となる駅前の方針と3つのビジョン

時間を忘れるほど夢中になれる駅前

#1

世界中で
ここにしかない

#2

日常的に人が集い
また訪れたくなる

#3

環境, 福祉, 多様性に
本気で取り組む